

讃美歌 142 番歌詞

(日本基督教団讃美歌委員会、1954年)

～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～

1. 栄えの主イエスの 十字架をあおげば
世のとみほまれは 塵にぞひとしき

2. 十字架のほかには ほこりはあらざれ
この世のものみな 消えなば消えされ

3. みよ主のみかしら み手、み足よりぞ
めぐみとかなしみ こもごもながるる

4. めぐみとかなしみ ひとつにとけあい
いばらはまばゆき かむりとかがやく

5. ああ主のめぐみに むくゆるすべなし
ただ身とたまとを ささげてぬかずく

邦語歌詞は、立川福音自由教会のホームページ、

<https://efct.sakura.ne.jp/site/2021/03/26/アイザック・ウォッツ作「栄えの主イエスの」/>
から転載しています。

～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～

1.
あの驚くべき十字架に私が思いを馳せるとき
その上で、栄光の主は死んでくださったのだが、
私の最も豊かな利益も、損と見なさざるを得ない。
さらに私のすべての誇りを侮蔑するしかない。

2.
主よ、私が誇りにすることを禁じてください
私の神であるキリストの死以外のことを。
この心を惹きつけて止まないすべての空しいものを
主の血潮に犠牲としてお献げしますから。

3.
見なさい。主の御頭(かしら)、御手、御足から
悲しみと愛が混ざり合って流れ落ちるのを。
そのような愛と悲しみが出会ったことがあったか
また、茨(いばら)がこのような尊い冠となったことがあったか。

4.
死にゆく主の赤い血潮は礼服のように
木の上の主のみからだに広がっている。
それで私は世に対して死んでいる。
また世のすべては私に対して死んでいる。

5.
たとい全世界が私のものであったとしても
それは主への贈り物として小さすぎる。
このように驚くべき聖なる愛は、
私のたましいと生涯のすべての応答を求める

資料2-2 「栄えの主イエスの」 (When I survey the wondrous cross) 原曲歌詞とその邦訳

原曲歌詞は下記からの転載です。

https://en.wikipedia.org/wiki/When_I_Survey_the_Wondrous_Cross

～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～

1 .

When **I** survey the wondrous cross
On which the Prince of Glory died,
My richest gain **I** count but loss,
And pour contempt on all **my** pride.

2 .

Forbid it, Lord, that **I** should boast,
Save in the death of Christ **my** God,
All the vain things that charm **me** most,
I sacrifice them to His blood.

3 .

See from His head, His hands, His feet,
Sorrow and love flow mingled down,
Did e'er such love and sorrow meet,
Or thorns compose so rich a crown?

4 .

His dying crimson, like a robe,
Spreads o'er His body on the tree;
Then **I** am dead to all the globe,
And all the globe is dead to **me**.

5 .

Were the whole realm of nature **mine**,
That were an offering far too small;
Love so amazing, so divine,
Demands **my** soul, **my** life, **my** all.

邦語歌詞は、立川福音自由教会のホームページ、

<https://efct.sakura.ne.jp/site/2021/03/26/アイザック・ウォッツ作「栄えの主イエスの」/>
から転載しています。

～ ♪ ～ ♪ ～ ♪ ～

1 .

あの驚くべき十字架に私が思いを馳せるとき
その上で、栄光の主は死んでくださったのだが、
私の最も豊かな利益も、損と見なさざるを得ない。
さらに私のすべての誇りを侮蔑するしかない。

2 .

主よ、私が誇りにすることを禁じてください
私の神であるキリストの死以外のことを。
この心を惹きつけて止まないすべての空しいものを
主の血潮に犠牲としてお献げしますから。

3 .

見なさい。主の御頭(かしら)、御手、御足から
悲しみと愛が混ざり合って流れ落ちるのを。
そのような愛と悲しみが出会ったことがあったか
また、茨(いばら)がこのような尊い冠となったことがあったか。

4 .

死にゆく主の赤い血潮は礼服のように
木の上の主のみからだに広がっている。
それで私は世に対して死んでいる。
また世のすべては私に対して死んでいる。

5 .

たとい全世界が私のものであったとしても
それは主への贈り物として小さすぎる。
このように驚くべき聖なる愛は、
私のたましいと生涯のすべての応答を求める